

〈資料〉

志村直信 画業年譜

明 石 博 行

解 題

千葉県在市川市は、第2次大戦後、ふたりの優れた画家を生んだ。ひとりとは戦後の日本画壇を代表する画家となった、東山魁夷(1908-1999)である。もうひとりとは志村直信(1924-2001)である。以下の年譜に記されているように、志村は、1924(大正13)年11月7日に生まれた。没年は2001(平成13)年3月19日。享年76歳であった。

残念なことに、志村はまだその名を知られておらず、その画業は忘却されている。その没年さえ、一般には知られていない。志村が遺した重要な作品群も忘れ去られている。

志村の画業は、いくつかの段階ないし時期に分けることができる。その第1の段階は、画家となることを目指すようになるまでの模索期である。この模索の過程がどのようなものであったのかは、よくわからない。志村は、横浜と川崎で尋常小学校時代を送り、日本大学第四中学校へ進学した。幼いときから絵の才能には恵まれていただろう。画家になりたいと考え始めたのは、かなり早い時期だったと思われる。

第2の段階を修行期とよぶならば、それは、1942(昭和17)年4月に東京美術学校(現東京芸術大学)油画科に入学する、やや前の時期に始まっていた。詳しいことはわからないけれども、中学生のときから画業に関するかなりの学習と修練を積んでいた。本格的な修行期は中学生のときに始まったといえそうで

ある。「深秋(岡部村風景)」という、東京美術学校に入学する前の1942年に描いた作品が、1946年の山梨県美術展で知事賞を受賞したほどだったから、美術学校入学前にかかなりの修練を積んでいたことは間違いない。

したがって、志村の本格的な修行期は、東京美術学校に入学するやや前の中学時代から美術学校を卒業するまで、とみることができよう。志村自身が年譜で、1924(大正13)年から1946(昭和21)年までを大きな括りで区分していたこと、また卒業前後から多彩な画業を開始していたことをふまえると、1946(昭和21)年3月に東京美術学校油画科の卒業時をもって修行期を終えたとみてよかろう。

その後志村は、自立の道を模索する時代へと、分け入ってゆく。美術学校卒業後の志村は、米軍に接收されたオクタゴン・シアターに入社し、そこでほぼ1年間、宣伝部の仕事に従事した。退社後には、ペンキ屋、似顔絵かき、映画の看板を描くといった、さまざまな画業を経験した。人の表情を描くことに関しては、志村は抜群の技量をもっていた。その基礎はこの時期に形成されたのだろう。志村はまた、挿絵を描き、雑誌に漫画を寄稿したりもした。ペン画は志村が得意とした領域のひとつであった。漫画を描くことは、ペン画の画力を高めたであろう。この時期の油絵などは、火事で焼けてしまい、残っていない。しかし、出版された少年少女向けの翻訳書に掲載された挿絵によって、当時の画業の一端を知ることができる。

志村は、批判精神に富んだ、教養人であった。志村の画業のなかで特筆すべきことのひとつは、アンドリュー・ワイエス(1917-2009)の画業を本格的なかたちで受け止め、独自にその画業を発展させた画家だったということである。ワイエスの画業を正面から受け止め、発展させた、日本で唯一の画家であったといえるかもしれない。年譜の1974(昭和49)年の部分には、国立近代美術館で開催された「アンドリュー・ワイエス展」を同年4月に見て大きな衝撃を受けたことが、以下のように記されている。

「アンドリュー・ワイエス展 (国立近代美術館)

(はじめて知った名前. はじめて見た作品.)
(異常な体験. 大きなショックを受ける.)」

これ以降の志村の画業では、本格的な油絵が、大きな比重を占めるようになってゆく。もちろん、ペン画も描いたし、水彩画も描いた。しかし、本格的な油絵という本来の画業に立ち戻るといふ決意を、この時期に固めたようにみえる。油絵の主題も、その描き方も、ワイエスから受けた衝撃を正面から受け止めたことを示している。

といっても、真似たということではない。志村には志村の独自の描き方があり、独自の対象があった。志村は西洋画の伝統に立ち戻り、自画像を積極的に描くようになった。敬意をもって接してきた人たちの尊厳、そして疎外された人たちの苦しみや強靭さを、独自の画力で表現した。労働手段のような、単なる手段として疎外されてきた物や、廃棄物として打ち捨てられた物も、敬意と愛情をこめて描いた。

志村の画業史における特筆すべきことのなかには、その画業が市川市という地域と深く結びついていたということがある。志村の画業は、市川市の歴史の一部をなしている。志村は、市川市の各地の風景を描き、「市川ジャーナル」誌や市川ジャーナルの編著などにその絵を掲載した。市川市の風景画の絵画展も、何度も開催した。市川市の絵地図も描いた。1980年代以降になると、日本では、江戸時代からある絵地図に新たな装いをもたせるかたちで、地域づくりと結びついた絵地図が各地で作られるようになった。志村の手になる市川市の絵地図は、それらの先駆をなすものであった。

志村の画業は、市川市という、特定の地域に限られるものでなかった。千葉県だけでも、県内の各地を回り、船橋、浦安、野田、九十九里、勝浦などの特色ある地域の風景画を描いた。街道や街道沿い、鉄道とその沿線の風景などを描いたものもある。千葉県だけではない。東京の豊島区は縁の深い場所であったから、池袋などの豊島の風景はよく描いた。飯田橋やお茶の水など、東京と千葉を結ぶ沿線の東京の風景なども描いた。志村は、瀬戸（愛知県）、佐渡（新潟県）、足尾（栃木県）など、日本の各地の風景画も描いた。

しかし、志村の画業は、日本という国の枠にとどまっていなかった。それはグローバルな広がりをもっていた。スペインやフランスなどのヨーロッパの

風景を、そしてヨーロッパの人や歴史の重みを描いた。エジプトに関する絵画もある。歴史の年輪が刻みこまれた対象物の重厚さや美しさ、人々の苦しみや尊厳や力強さなどに対する敬意をこめた表現法、画材の使い方を含むさまざまな画法においても、新たな試みをした。色彩の使い方でも、志村独特の深みのある茶色を効果的に用いた。洋画史の革命ともいえる試みが、そこには含まれていた。志村は、市川市という地域に根ざした画家であった。けれども、特定の地域にこだわり続けるタイプの画家ではなかった。志村はグローバルに活動した画家であった。

以下に掲載する年譜は、志村自身の手になる画業の記録に、若干の手を加えるかたちで作成したものである。しかし、そのすべてを記載してはいない。記載は1979(昭和54)年末までに限定した。すべてを掲載すると、あまりに多くのページを費やすことになることも、その理由のひとつである。しかし、主としてそれは、志村の画業にとってのひとつの区切りが、この1978年ないし1979年という年にあると解せることによる。

画業年譜には、1979年の画業記録の末尾に、

「1979(昭54)年12月現在までに、

個展	4回
グループ展	59回

と囲みで括られたメモ書きがある。1978年にも、中間的な総括をしたメモ書きがなされている。志村は、1970年代までの画業の枠を超えて、さらなる高みをめざそうとしていた。

日本の歴史も大きな転換期を迎えつつあった。1971年8月のニクソン・ショックを契機として急速な円高に見舞われ、1973年の第1次石油危機を経て、日本の高度経済成長期は終焉していた。石油危機後の急速な物価上昇と景気停滞ないし後退の同時進行というスタグフレーションのただなかで、戦後日本の歴史も大きく変転した。1978年という年は、日本経済の再構築に向けた変革の方向性がほぼ確立した年でもあった。1979年には、イラン革命の影響を受けて第2次の石油危機が起きた。日本経済へのその影響は、比較的軽微なものにとどまっ

た。1980年代になると、日本経済や日本的経営を賛美する声が大きくなってゆく。80年代後半の「バブルの時代」へと、時代は移り替わっていった。

1978年そして1979年は、日本の戦後史における、そして世界史においても、ひとつの区切りを画する年である。志村の個人史にとっても、それは時代を画するものとなった。

1978年以降の志村は、さまざまな美術展に作品を出品し、新たな画業の歴史を積み重ねていった。その画業史は、ワイエスを含む多くの先駆者たちの業績を正面から受け止めつつ、独自の画業を大成してゆくものであった。病魔によって、その画業は未完に終わった。その過程を詳細に論ずることや、1980年以降の年譜の紹介については、別の機会を俟たなければならない。

以下に示す画業年譜の元の記録は、みずからの画業の歴史を年表のかたちで整理したものであった。その全体は、B5版のノートに、左右を見開きで区分するかたちで整理されていた。復元には、そのコピーを使用した。一部に読み取りにくい文字もあったが、一定の区分をした部分ごとに、丁寧に読みやすい字で書かれていた。覚書きのような記録文書となっており、表題は付されていなかった。そのためここでは、「志村直信 画業年譜」という表題を付すかたちで整理をし、公表することにした。

元の記録は、左右が一体となるかたちで記録され、左右の両面を併せることで、B4版の年表となっていた。単年度あるいは複数年を括るかたちで画業を記録した覚書きであり、罫線によって囲みの区分がなされていたわけではない。年譜として掲載するにさいして、見やすくするため、罫線による区分を加えるかたちで整理した。掲載するにあたっては、左のページに記されていた部分と右のページに記されていた部分を、太線が括るかたちで、左右のページごとの区分を判別できるかたちで記載した。また、西暦の年月または年月日に元号による年表記録と画歴の事項表記を点線で区分するかたちで、左のページで整理した。右のページには、「備考」として、画歴の事項に関する説明との対応関係を読みとれるように記し、点線で区分をした。

本誌の紙型によって元の年譜を左右の見開きのかたちで復元することは困難

であった。当初、1ページに左右の見開きを判別できるかたちで復元することも、試みてはみた。だが、字体があまりに小さくなって読みにくいので、その形式は採用できなかった。簡素化した年譜をより大きな版本で作成するときには、そのような形式を採用してもよかろう。試行錯誤の結果、紙型を縮小するかたちで、左右の見開きのかたちで年譜を復元した。小さな文字で復元せざるをえなくなった関係で、右蘭の文字の一部には、読みにくい部分もあろう。

志村は、ある時期から、「売り絵は描かない」と言っていたそうである。元の年表には、一部の絵画を譲渡したときの費用が、小さな文字で記録されていた。譲渡費の一部には下3ケタを省略して線を引いただけのものとか、楕円の囲みで記載の繰返しを省略したものもあった。作成の過程では、それらの記載の仕方を含む、譲渡費の記載を復元したものも作成した。しかし、私的な領域に立ち入りすぎることになるので、その記載は削除した。購入者の個人名は記載したので、この記載でも調査の手がかりになろう。

譲渡した作品の値づけに立ち入ることは避けるが、それらの譲渡費のいくつかには、購入者の支援の意をこめた一種のカンパのようなものが含まれていたように思われる。しかし、それらはおおむね、画材費に画業への若干の報酬を加えた程度のもの、あるいは画材費以下のものでしかなかったように思える。それらの絵画は、高く売ろうと思ったならば、また売れる絵にする工夫をすれば、もっと高い値をつけて売ることができたであろう。画家あるいは漫画家としての自己の世評を高め、描き手として生活してゆくことを考えたならば、そうすべきであったのかもしれない。しかし、志村はそうしなかった。そういう人だったのである。

元の年表では、「第」、卒業の「卒」、「風」、曜日の「曜」、職員の「職」、「点」などの文字は、略字で記されていた。これらの略字は補正した。また、左のページの上部には、特定の年または数年間をまとめたアラビア数字が記され、左右の見開きごとに、一定の時期区分をするかたちで整理がなされていた。ページごとの記載をそのまま復元することも考えたが、そこまで復元することはせず、外枠を加えるかたちで年(年代)区分を左上に記すかたちで記載するものと

した。左上部の年の区分については、元のアラビア数字のみで示されて西暦年に、丸カッコを付した元号年の表記を付記するかたちで、ページごとの区分を認識できるようにした。

ある時期からの志村の画業は、養女となってその生活を支えた志村芙紗子（旧姓阿川：1933-2022）によって継続されえた。志村の画業や関連資料の基本的な整理も、志村芙紗子によって、すでになされていた。以下に掲載する年譜は、彼女が整理した資料のごく一部を切り取って記載しただけのものである。

この年譜が、もっと高く評価されてしかるべき画家である志村直信の業績と、その画業を支えた志村芙紗子の功績が知られるひとつの契機となってくれることを望む。

志村直信 画業年譜

1924(大正13)年～1946(昭和21)年

西暦(年号)	事項
1924(大13)年11月7日	横浜市中区曙町に生まれる 父・寛、母・かね子、長男(旅館業)
1931(昭6)年4月	横浜市立日枝尋常小学校 入学
1932(昭7)年	川崎市立川崎尋常高等小学校に転校
1937(昭12)年4月	日本大学第四中学校 入学
1942(昭17)年4月	東京美術学校油画科 入学
1943(昭18)年	学徒出陣で同窓生の多くが出征
1944(昭19)年 春	征き残りの同窓生展(八王子にて)
夏	大原美術館に遊ぶ
1945(昭20)年 4月13日	B29による夜間空襲により全焼、火傷を負う (東京市豊島区巢鴨三丁目二六番地)
〃 6月10日	東部第187部隊赤城隊2班 入隊 (野戦重砲兵第1聯隊・市川市国府台)
〃 9月	復員
1946(昭21)年 1月	山梨県美術展に出品
〃 3月	東京美術学校油画科 卒業

1946(昭和21)年～1957(昭和32)年

西暦(年号)	事項
1946(昭21)年 4月	米第8軍接收オクタゴン・シアター宣伝部入社 (元オデオン座・横浜伊勢佐木町)
1947(昭22)年 3月	同宣伝部退社のあと ペンキ屋、似顔かき、映画の看板、 「読物と講談」誌などに挿絵、 雑誌「VAN」「くまんぱち」に漫画寄稿
1948(昭23)年 9月	新制作派展 入選
〃 11月	東京都板橋区立赤塚小学校に勤務
1949(昭24)年 4月	「学習略画辞典」出版(東雲堂)
〃 7月	グループ展「青壺会」に参加(日本橋・丸善)
〃 12月	赤塚小学校 全焼

備考	
昭和17年4月東京美術学校油画科入学者の卒業記録	
昭和21.3卒業	磯口文夫、 稲田九作、 大野敬一郎、 小林孝爾、 志村直信、 橋本行雄(修)
昭和22.3卒業	永野一、 名井玲、 細谷俊彦、
昭和23.3卒業	安保健二、 飯山勇、 (井口啓) 谷田貝(内田)修、 田口光男、 <u>田中正元(没)</u> 、 寺井正行、 日吉力、 蛭沢尚、 平馬立彦、 牧野邦夫(没)、 <u>山本敬二(没)</u> 、 小林久三、 <u>奥龍雄(没)</u> 、 <u>大溝祐史(戦死)</u> 、 <u>三好諭吉(没)</u>
昭和24.3卒業	有賀温、 <u>小川伝四郎(没)</u> 、 <u>杉原佳泉(修、戦死)</u>
昭和25.3卒業	杉野仁彦、 <u>雨宮健一(修、没)</u>
小林孝爾、名井玲、佐藤努、井口啓、深沢幸雄、志村直信	
名井玲、佐藤努、志村直信	
全作品、画材、画集その他すべて焼失、着のみ着のまゝ脱出 山梨県東山梨郡岡部村鎮目に疎開	
「深秋」(岡部村風景) 30F (1942作)	知事賞
「祖父」(和田信之助) 6F	

備考	
「講堂・焼けあと」(文京区駕籠町) 30F	
寺内万治郎先生、渡辺武夫先生 西田享、佐藤晃、阿部武久、若林稔、佐藤努、久保庭栄二、志村直信	

	校舎の一隅に假寓していたため 全作品、絵具、画集など再び全焼
1950(昭25)年8月	グループ展「青壺会」に出品(日本橋・丸善)
1952(昭29)年1月23日	練馬区貫井町794-1に土地購入(36坪2号3石) バラックのアトリエを建てる
1955(昭30)年8月	三人展(日比谷画廊)
1957(昭32)年4月	三人展(日比谷画廊)

1959(昭和34)年～1969(昭和44)年

西暦(年号)	事項
1959(昭34)年2月23日	練馬貫井町で3度目の火災にあい全焼 三度全作品を消失 以後 絵筆を絶ち 組合活動に専念
1960-61(昭35-36)年	豊島区教育委員会発行の「豊島の教育」に漫画漫文「池袋18時間」を連載
1963(昭38)年12月	都教組豊島支部より脱脂ミルク給食反対のパンフレット「みんなの声」編集出版
1968(昭43)年2月	第21回日本アンデパンダン展 (都美術館)
1969(昭44)年2月	第22回日本アンデパンダン展 (都美術館)
〃 6月	都中美展 (新宿駅ビル)

野尻佐太右エ門・大橋皓也・志村直信
久保庭栄二夫妻・志村直信

備考		
1966年* (昭41)	大町風景(油 F4) 大町風景(油 F4) 内郷駅付近(水) 肖像画(父)油 F6 肖像画(母)油 F6	池中 黒田氏 池中 日高氏 工作ヤ 高中三沢氏 高中三沢氏
1967年 (昭42)	肖像画(コンテ) 肖像画(コンテ) 御岳風景(油 F10) 安中風景(水二枚のつづき)	池中用ム員佐々木氏 池中用ム員佐々木氏 池中鈴木氏 池中
1968年 (昭43)	5月 （ 拝島操車場(水) 石神井公園・廃屋(水) その他水彩数点 大町へ移転の前日(5月) ）	東長崎北荘
1969年	秋川溪谷(水)	池中 黒崎氏
1970年	御岳風景(油サムホール)	
「学校のある街」	80号変形	(北池袋・池袋第二小学校)
「運河のある街」	60号変形	(水道橋附近)
「瀬戸のつち山」	100号変形	(愛知県・瀬戸)
「燃料基地」	100号変形	(鶴見・浜安善)
「米タン拒否」	80号変形	156.5×91.5 (鶴見・安善)
「出航」	12号	(福岡県・四ツ倉港)
「卒業」	4号	

" 8月10日 -19日	第17回平和美術展 (都美術館)
--------------	------------------

1970(昭和45)年

西暦(年号)	事項
1970(昭45)年1月	第20回東京都職員美術展 (都美術館)
" 2月	第23回日本アンデパンダン展 (都美術館)
" 3月	都中美展 (新宿駅ビル)
" 8月10 -19日	第18回平和美術展 (都美術館)

1 「バスを待つ人々」	
2 「診察を待つ人々」	
3 「踏切で待つ人々」	
4 「タンク車が行く・A」	
5 「タンク車が行く・B」	
6 「卒業」	4号
7 「すわりこむ」	
8・「若者よ」	10号 阿川氏

*右欄に記載した1966年から始まる部分は、右欄にやや小さな字で記入されていた部分である。この部分は、字体をやや小さくし、特別の右欄として、区分するかたちで記載した。

		備考	
・「瀬戸のつち山・A」	30号変形	(愛知県・瀬戸) 教育委員会費	
「瀬戸のつち山・B」	40号変形	(愛知県・瀬戸) 買上げ	
「土地を返せ」	80号変形		
「整列」	60号変形		
「日曜日」	(ペン画) 219 × 14.5	(朝霞)	
「家路」	(ペン画) 21.5 × 14.3	(朝霞)	
1 「変電所」	(油)	(鶴見・浜芝浦)	
2 「黙認耕作地」	(油)		
3 「何かがくる」	(油) 25号		
4 「春」	(ペン) 19 × 17.5	(朝霞)	
5・「夏」	(ペン) 23.7 × 17	(朝霞) 愛沢氏	
6・「秋」	(ペン) 23.7 × 17	(朝霞) 山地氏	
7・「冬」	(ペン) 23.7 × 17	(千早町・豊島高校うら) 大野氏	
8 「出勤」	(ペン) 24.5 × 17		
9 「家路」	(ペン) 21.5 × 14.3	(飯田橋)	
10 「半ドン」	(ペン) 33 × 22.3	(池袋駅東口)	
11 「日曜日」	(ペン) 19 × 14.5	(北池袋)	
12 「雨の日」	(ペン) 23.5 × 17		
13 「もう日が暮れる」	(ペン) 18.7 × 14.8	(小岩)	
14 「空がほしい・A」	(ペン) 24 × 17	(池袋東口)	
15 「空がほしい・B」	(ペン) 22.8 × 15.5	(平井団地)	
16 「空がほしい・C」	(ペン) 23.5 × 17.3	(平井南小学校)	
17 「出ていけ!!」	(ペン) 24.5 × 17		
18 「傍観者たち」	(ペン) 24.5 × 17.5		

1970(昭和45)年～1971(昭和46)年

西暦(年号)	事項
1970(昭和45)年 12月19～23日	'70 この日本「漫画展」 (豊島区民センター)
1971(昭和46)年 1月26～31日	第21回東京都教職員美術展 (都美術館)
〃 2月18～3月2日	第24回アンデパンダン展 (都美術館)
〃 7月4～10日	No.1 青朋会展 (銀座・ヤマト画廊)
〃 8月10～19日	第19回平和美術展 (都美術館)
〃 9月12～18日	'71・この日本漫画展 (豊島区民センター)

1972(昭和47)年

西暦(年号)	事項
1972(昭和47)年2月	第25回日本アンデパンダン展 (都美術館)

備考				
「地面がほしい」	(ペン)	28 × 17.5		
「空がほしい」	(ペン)	22.8 × 15.5	(前掲 B と同じ)	
「守ってるヤツ」	(ペン)	24 × 13		

「倉庫のある街・A」	(油)	60号変形	(生麦) 奨励賞	
「倉庫のある街・B」	(油)	60号変形	(鶴見) 爐	
「会議」	(油)	40号変形	110 × 95	
「風」	(油)	60号変形	130 × 81	ツブス
「A 基地」	(ペン)	40 × 15	(朝霞)	
「うたごえ」	(油)	10号変形	110 × 75	
「守ってるヤツ」	(ペン)	24 × 13.8		
「焼結爐」	(油)	20M	(足尾)	
「精錬所」	(油)	15F	(足尾)	
「選鉱所」	(ペン)	24.5 × 17.5	(足尾)	
「水門」	(油)	1号 ハガキ大	(砂町) 阿川氏	
1・「僕には見えるよ」	(ペン)	48 × 32	池中卒 平井俊明氏	
2・「水槽の魚」	(ペン)	15 × 10	阿川氏	
3・「教員住宅」	(ペン)	17.5 × 12.5	(朝霞) 岡口氏	
4・「大当り」	(ペン)	40 × 15		
5・「災難とだけではすまされない」	(ペン)	51 × 35		
6・「中池袋公園」	(色紙)		珊瑚	
7・「佐渡藻浦」	(色紙)	2,900 × 6点	東信労組 菊池五郎氏 赤塚二中 山口清子氏 保谷中 鈴木良雄氏 岡口氏 その他	

備考			
1 「これ以上の遊び場はない」	(ペン)	24 × 17	
2 「言葉を使うのはむづかしい」	(ペン)	28 × 17.5	
3 「威張ってたって中はカラッポさ」	(ペン)	24.5 × 17	
4 「松本樓 消失(日比谷)」	(ペン)	33.2 × 22.5	

4月	第49回春陽会	11室 (都美術館) 初出品
// 6月	ペン画集『風のうた』出版	(蒼海出版)
// 6月	No.1 個展	(市川・本八幡 画廊喫茶チェリー)
// 7月	2人展——八木義之介氏と——	(銀座・養清堂画廊)
// 8月	No.20 平和美術展	(都美術館)
// 9月	'72・この日本漫画展	(豊島区民センター)
// 8月	No. 2 青朋会	(銀座・ヤマト画廊)

1973(昭和48)年

西暦(年号)	事項
1973(昭48)年1月 ～1975年1月	毎月「市川ジャーナル」誌にペン画「風のうた」連載
// 2月	第26回 アンデパンダン展 (都美術館)
// 4月	第50回 春陽会 14室・(都美術館)
// 8月	スペイン・マドリードに遊ぶ

5 「天皇陛下様、永らくお預かり致しました」 (ペン)	24.5 × 17.5	横井伍長生選
6 「恥ずかしいけど生きている」 (ペン)	22.5 × 15.5	
「瀬戸のつち山」 (油)	60号変形	
1 水槽・かぜ (ペン) 阿川氏	7・五月あさ・日光所野	阿川氏
2 石切り場・鋸山 (水)	8 砂町・水門 (水)	
3 藻浦部落・佐渡 (水)	9 忍野村・北富士 (水)	
4 埋立地・浦安 (水)	10 漁港・保田 (水)	
5・雲流れる・日光 (水) 長畑氏	11・榊崎灯台・佐渡 (F3油)	程原氏
6・仁右衛門・太海 (水)	12・浦安・東水門 (F3油)	大村氏
	13・忍野村・北富士 (F3油)	大村氏
飯田町・昼下がり (ペン) 阿川氏		
上野・年の暮れ (ペン) 山地氏		
第二教員寮 (ペン)		
「瀬戸のつち山」 (油) 30号	《以後 出品せず》	
「赤軍派連続殺人事件」 (ペン)		
「漁船修理」 (油) 40号変形		

備考

- 「すてられた山」 (油) 80号変形
- 「来たるべくして やってきた」(ミュンヘン・オリンピック テロ事件) (ペン)
- 「聞こえますか 戦争は終わったのです」(ルバンク島・日本兵射殺事件) (ペン)
- このあと 小野田少尉 ルバンク島より生還 ——
- 「瀬戸のつち山」 (油) 50F

		八木義之介、中沢志朗、京野一、落合利行
〃	9月	'73・この日本漫画展 (豊島区民センター)
〃	11月	杜人会 (銀座・渋谷画廊)
〃	12月より翌年 1月にかけて	フランス・パリに遊ぶ

1974(昭和49)年 ・ 2 - 1

西暦(年号)	事項
1974(昭49)年1月24 - 2月3	市川風物画 原画展 (市川・松坂屋)
〃 2月18 - 3月2	第27回日本アンデパンダン展 (都美術館)

「市川風物画」	(ペン)		
「市川市案内図」	(ペン)		
「東水門・浦安」	(油)	10F	
・「早春・小仲台」	(油)	12M	清水氏

備考			
1 市川駅北口	(風のうた①)	(ペン)	19 野良へゆく道 (水)
2 八幡のヤブ知らず	(" ②)	"	20 雪の中山法華経寺 (水)
3 バス停・大町公民館前	(" ③)	"	21 市川港 (水)
4 バス停・曾谷	(" ④)	"	22 浦安変貌 (水)
5 市川南四丁目	(" ⑤)	"	23 勝浦港 (水)
6 市川駅南口	(" ⑥)	"	24 廃船 (水)
7 大町自然公園	(" ⑦)	"	25 里見公園 (水)
8 貝塚と博物館	(" ⑧)	"	26 鋸山 (水)
9 行徳橋	(" ⑨)	(ペン)	27 朝 (水)
10 おみこし造り	(風のうた⑩)	ペン	28 晩秋 (水)
11 バスの食堂	(" ⑫)	"	29 廃屋 (水)
12 小鉢敷設	(" ⑬)	"	30 昼下がり (水)
13 わび住まい		ペン	31 芽ぶく頃 (水)
14 もう日が暮れる		"	32 太海 (水)
15 雨の日		"	33 東水門・浦安 (油)
16 本八幡駅構内		"	34 バスを待つ (油)
17 本八幡駅改造		"	35 診療を待つ 12p (油)
18 早春		(水)	36 倉庫 60 変形 (油)
ペン画. 水彩画. 油絵.		36 点出品 (上記) *	
		後援 市川ジャーナル・松永画廊	
1 「窓・A」	(油)	6F	
2 「窓・B」	(油)	12 変形	市川ジャーナル贈呈
3 「行徳のみこし造り」	(ペン)		
4 「乗合バスの改造食堂」	(ペン)		
5 「小金線 敷設」	(ペン)		((以後 出品せず))

〃	4月22-5月8	第51回 春陽会 13室	(都美術館)
〃	4月	アンドリュウ・ワイエス展 (はじめて知った名前. はじめて見た作品) (異常な体験. 大へんなショックを受ける)	(国立近代美術館)
〃	5月11-15	現代美術家連合「小品展」	(新宿京王デパート)
〃	5月27-6月2	杜人会・春季展	(銀座・渋谷画廊)
〃	8月12-17	杜人会・本展 会期中に渡欧	(文芸春秋画廊) (セゴビア)

1974(昭和49)年 ・ 2 - 2

西暦(年号)	事項
1974(昭和49)年11月15-19	江戸川区教職員展 (錦糸町駅ビル)
〃 11月18-24	杜人会・秋季展 (銀座・渋谷画廊)
〃 12月2-10	No.2 個展 (市川・本八幡 画廊喫茶チェリー)

「まど」	(油) 30p	つぶす
「東水門・浦安」	(油) 10F	
「微光」(セゴビア・教会)	(油) 6F	
「納屋」	(油) 30変形	
「街かど」(サンマルタン附近)	(油) 30F	つぶす
「サンマルタン」	(油) 20P	
「セーヌ」	(油) 30変形	

* この36点の表題等は、1～9、10～18、19～27、28～34、35～36、という括りで、ノートの欄外の上段に書かれていた。記載の関係で、この括りを解体し、右欄に記載した。

備考		
「サンマルタン」(枯木のある広場)	(油)	20P
「セーヌ」	(油)	30変
「埋立地」	(水)	30変
		10月30日 藤田自殺
「裏通り」	(油)	30F
「最初の家」	(油)	25変
1 「シエスタの時間」	(油)	3F
2 「出勤」	(油)	3F
3 「微光」	(油)	6F
4 「裏木戸」	(油)	8F
5 「最初の家」	(油)	25変
6 「太海」	(水)	1F
7 「埋立地・新浜」	(水)	1F
8 「晩春」	(ガッシュ)	2F
9 「坂道」	(ガッシュ)	10変 32 × 50
10 「湿地帯」	(ガッシュ)	10変 50 × 32
11・「初秋」	(ガッシュ)	12変 50 × 25 相沢氏?
12・「習作」	(ガッシュ)	15p 小沢氏
13 「孤影」	(ガッシュ)	15M
14 「街はずれ」	(ガッシュ)	15変 65 × 25

1975(昭和50)年

西暦(年号)	事項
1975(昭和50)年4月22-5月8	第52回 春陽会 3室 (旧・都美術館)
〃 5月12-18	杜人会・春季展 (銀座・渋谷画廊)
〃 8月5-11	杜人会・本展 (文藝春秋画廊)
〃 11月1-20	東京展 (新・都美術館)
〃 11月24-30	杜人会・秋季展 (銀座・渋谷画廊)
〃 12月21-26	第19回中部春陽展 (愛知県美術館)

1976(昭和51)年 ・2-1

西暦(年号)	事項
1976(昭和51)年2月9-20	群炎展 (都美術館)初出品
〃 3月1-7	2人展—大熊徳衛氏と一 (銀座・渋谷画廊)
〃	
〃 3月29-4月3	6人展 (同和画廊)

備考		
「埋立地・B」	(油)	30F
「埋立地・A」	(油)	25F
「埋立地」	(水)	
「石 墨」	(油)	80変
「埋立地」	(油)	30P
「まど」	(油)	20M
「埋立地・A」	(油)	25F
「埋立地・B」	(油)	30P

備考		
「納 屋」	(油)	30変
「孤 影」	(水)	50 × 65
1 「街かど」	(油)	20M
2 「うち通り」	(油)	30P
3 「納 屋」	(油)	30変
4 「最初の家」	(油)	25変
5 「河 岸・A」	(油)	30変
6 「河 岸・B」	(油)	20変
7 「埋立地・A」	(油)	25F
8 「埋立地・B」	(油)	30P
9 「埋立地・C」	(油)	30F
10 「埋立地・D」	(水)	10変
11 「孤 影」	(水)	15変
12 「坂 道」	(水)	8変
13 「まど・A」	(油)	15F
14 「まど・B」	(油)	20M
赤平浩一・大熊徳衛・印牧邦一・志村直信・城埼定義・広田順治		

”	4月22－5月14	第52回 春陽会	4室(都美術館)
”	11月22－28	杜人会・秋季展	(銀座・渋谷画廊)

1976(昭和51)年 ・ 2 - 2

西暦(年号)	事項
1976(昭51)年12月13－18	群炎会員展 (同和画廊)

1977(昭和52)年

西暦(年号)	事項
1977(昭52)年2月8－20	群炎展 (都美術館)
” 4月27－5月14	No. 54 春陽会 16室(都美術館)
” 9月24－30	江戸川区教職員展 (江戸川区民センター)
” 11月21－26	杜人会・本展 (洋協ホール)
” 12月19－24	群炎会員展 (銀座・ヤマト画廊)

1978(昭和53)年 ・ 4 - 1

西暦(年号)	事項
1978(昭53)年2月8－21	群炎展 (都美術館)
” 3月1－7	No. 3 青朋会展 (銀座・ひさし画廊)
” 4月23－5月10	No. 55 春陽展 (都美術館)

「街かど」(パリ)	(油)	25P	
・「浦安・東水門」	(油)	10F	大都留氏
・「太 海」	(油)	6F	今井氏

備考			
・「忍野風景」	(油)	6F	鈴木氏

備考			
「拓く・A」	(ガッシュ)	65×50	
「拓く・B」	(ガッシュ)	50×65	
「埋立地」	(油)	40変	
「裸婦習作」	(ガッシュ)	65×50	
「自画像」	(デッサン)		
「新居浜ご獵場」	(油)	25変	
「石の窓」	(油)	30F	
「午后の村」	(油)	25変	
「運河」	(油)	25変	
「街かど」	(油)	40変	
			((12月 杜人会 退会))
・「甲斐駒」	(油)	4F	内山氏

備考			
「紋章のある家」	(ガッシュ)	65 × 50	
「村の家」	(ガッシュ)	50 × 33	
「小沢沢・早春」	(油)	4F	
「荷車のある風景」	(油)	50変	

" 5月1-13	No.3 個展 (地球堂ギャラリー・地下)
----------	-----------------------

1978(昭和53)年 ・ 4 - 2

西暦(年号)	事項
1978(昭和53)年6月30-7月3	街をかく3人展 (新宿・小田急美術サロン) 石丸弥平・かもよしひさ・志村直信

1	「埋立地・A」	(油)	30P	
2	「埋立地・B」	(油)	30F	
3	「埋立地・C」	(油)	25F	
4	・「埋立地・D」	(油)	40変	地球堂
5	「納屋」	(油)	30変	
6	「うら通り」	(油)	30変	
7	「セーヌの河べり」	(油)	30変	
8	「枯木のある広場」	(油)	20P	
9	「まど・A」	(油)	20M	
10	「まど・B」	(油)	15F	
11	「まど・C」	(油)	30F	
12	「坂道」	(ガッシュ)	32 × 50	
13	「下町」	(ガッシュ)	50 × 32.5	
14	「孤影」	(ガッシュ)	44 × 64	約15号
15	「街かど」	(油)	25P	
16	「荷車のある風景・A」	(ガッシュ)	44 × 65	地球堂
17	・「荷車のある風景・B」	(ガッシュ)	65 × 43	
18	「運河」	(油)	25変	
19	「街の教会堂・A」	(油)	13 × 12.3	
20	「街の教会堂・B」	(ガッシュ)	65 × 42	
21	・「村はづれ・A」	(油)	25変	阿川氏
22	「村はづれ・B」	(油)	30変	
23	「村の家」	(ガッシュ)	49 × 32	
24	「紋章のある家・A」	(ガッシュ)	65 × 46	
25	「紋章のある家・B」	(油)	50変 (111 × 77)	
26	「自画像」	(デッサン)	38 × 54	

備考

1	「バス停・下新宿(行徳街道)」	(ペン)	13 × 12.3	
2	「行徳街道・暮色」	(ペン)	20.5 × 13	
3	「浦安正月」	(ペン)	24.5 × 11	
4	・「東西線の見える風景(浦安)」	(ペン)	10.5 × 19	池田精孝
5	「東西線の見える風景(江戸川)」	(ペン)	24 × 11	
6	「小春日(大町・梨畑)」	(ペン)	13 × 12.3	桑原五郎氏
7	「市川港」	(ペン)	23.5 × 10.5	
8	・「もうゴハンだよ(小岩)」	(ペン)	18.7 × 14.7	
9	「家路(飯田橋駅近く)」	(ペン)	21.5 × 14.3	阿川氏

// 7月1-23	美術フェスティバル (マック・アートギャラリー)
-----------	--------------------------

1978(昭和53)年 ・ 4 - 3

西暦(年号)	事項
1978(昭53)年7月16-22	No. 4 個展ペン画 (銀座・ひさし画廊)

10 「お茶ノ水駅」	(ペン)	17 × 25.5	
11 ・「街はづれ(朝霞基地)」	(ペン)	40 × 15	阿川氏
12 「小名木川・香所橋」	(水彩)	22 × 27	
この時、美術サロンでの3年連続個展を依頼されたが、1979年1月・小田急企画による3年連続個展(79.80.81) 辞退			
画商弦巻氏のチューショーにいや気がさしたもの。			
山すその町・氷川	(ペン)	13 × 12.3	
梅雨のころ	(水彩)	17 × 24.5	
朝の海・外川	(水彩)	52 × 18	

備考			
1 大町自然公園		12 × 9.5	
2 守ってるヤツ		13.5 × 24	
3 木馬館		9 × 14	
4 小名木川・番所橋	(水)	22 × 27	
5 朝もや・江戸川		13 × 12.3	
6 池袋駅近く	(水)	28 × 20	
7 春		19.7 × 17.3	
8 中川・亀戸		26.2 × 15.8	
9 バス停・下新宿(行徳街道)		13 × 12.3	
10 行徳街道暮色		20.5 × 13	醤油工場
11 浦安・正月		24.5 × 11	
12 東西線の見える風景(江戸川)		24 × 11	
13 市川港		23.5 × 10.5	
14 ・もうゴハンだよ(小岩)		18.7 × 14.7	阿波加氏
15 ・お茶の水駅		17 × 25.5	高橋透氏
16 雨の日		17 × 23.5	
17 わび住まい		10 × 15	
18 綾瀬川・刑務所の見える風景		15 × 10	
19 池袋西口(1962年)		24.8 × 16.8	
20 池袋西口(1960年)		34.6 × 19	
21 池袋西口(1972年)		24.8 × 16.8	
22 駅前造成(朝霞)		18.8 × 14.7	
23 日旺日(北池袋)		19 × 14.5	
24 出勤		17 × 25	
25 空がほしい(池袋・三越)		17 × 24	
26 空がほしい(平井団地)		23 × 15.7	
27 空がほしい(平井南小学校)		24 × 17.5	

--	--

1978(昭和53)年 ・ 4 - 4

西暦(年号)	事項
	No. 4 個展 (銀座・ひさし画廊)
1978(昭53)年 9月 27 - 30	No. 4 江戸川区教職員展 区民センター
” 12月 18 - 23	群炎会員小品展 銀座・ヤマト画廊

1979(昭和53)年 ・ 2 - 1

西暦(年号)	事項
1979(昭54)年 2月 8 - 21	群炎展 都美術館
” 2月 9 - 14	東京都教職員展 都美術館
” 3月 25 - 30	No. 4 青朋会 銀座・ひさし画廊
” 4月 25 - 5月 10	No. 56 春陽会 都美術館
” 5月 20 - 27	市川市美術展 市民会館

28 地面がほしい	28 × 17.5
29 選鉱所 (足尾)	17.5 × 24.5

備考			
30 恥ずかしいけど生きている	15.5 × 22.5		
31 これ以上の遊び場はない	23.5 × 16.5		
32 威張ったって中はカラッポさ	24 × 16.5		
33 言葉を使うのはむづかしい	27.5 × 17		
34 松本楼 消失	33 × 22		
35 山すその町・氷川	13 × 12.3		
白い壁	(ガッシュ)	65.5 × 46.8	(約15号)
黒い壁	(ガッシュ)	38 × 54	(約10号) マットまで ³⁷ ×53
うら通り	(ガッシュ)	54 × 35	(約10号)
1978 (昭53) 12月現在までに、 個展 4回 グループ展 50回			

備考			
下町	(ガッシュ)	65 × 28.5	(約15号)
街かど	(ガッシュ)	72.7 × 54.5	(約20号)
村の家	(ガッシュ)	60 × 35	(約12号)
石の塔	(ガッシュ)	45 × 64	(約15号)
うらの窓	(アクリル)	15P	
うらの窓	(アクリル)	15P	前掲作品を全面的に修正
倉庫のある道	(アクリル)	20P	市長賞
日の当たらない街	(アクリル)	20P	

" 7月30—8月4	9人展	さくら画廊
" 8月27—9月2	マック展	マック・アートギャラリー

1979(昭和54)年 ・ 2 - 2

西暦(年号)	事項	
1979(昭54)年 10月27—11月18	No. 31 千葉県美術展覧会	県立美術館
" 12月17—22	群炎会員展	銀座ヤマト画廊

九十九里・斜陽	(ペン)	25.2 × 11.7	
・近郊鉄道	(ペン)	24.3 × 11.4	可児氏
竜飛・雪	(ペン)	23.7 × 10.3	
高原の教会堂	(ペン)	12.3 × 13	
(安倍広 久保利寛)	石原宏策 志村直信	岩崎宏 森川宗則	岡田知幸 渡辺逸郎 鏑木昌弥
自画像	(アクリル)	42 × 59.5	(約12号)
赤い壁	(アクリル)	20P	

備考									
	40変								
初 秋(拓く)	(アクリル)	106.6 × 71.4	会員推挙						
古都の家	(アクリル)	32 × 49							
<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2">1979 (昭54) 12月現在.</td> </tr> <tr> <td>個展</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>グループ展</td> <td>59回</td> </tr> </table>				1979 (昭54) 12月現在.		個展	4回	グループ展	59回
1979 (昭54) 12月現在.									
個展	4回								
グループ展	59回								